



Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン ニュースレター

March 2021 No.78



特集

シリア危機10年

いま、あなたに知ってほしいこと

特集 シリア危機10年

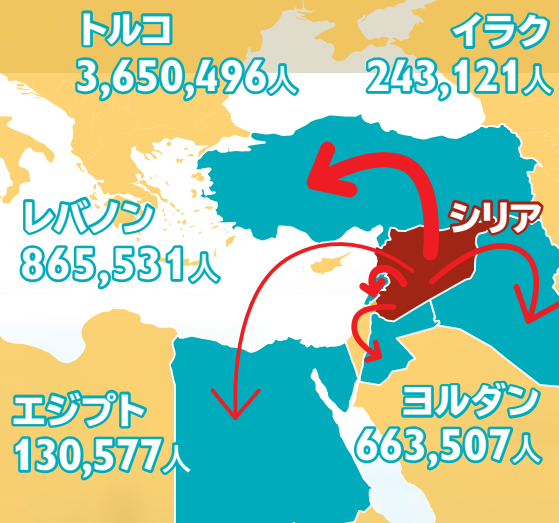
いま、あなたに知ってほしいこと

シリア危機が始まってから、2021年3月で10年が経過しました。子どもたちは、長らく紛争に加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により困難な状況に置かれています。このページでは、いま、あなたに知ってほしい5つのことを紹介します。

“爆撃で頭をけがして、物事を忘れやすくなりました。でも、いとも爆撃に遭い、助けに行こうとした彼の兄も負傷して、2人とも亡くなったことは一生忘れません。

ハシムさん(14歳)

シリア周辺国への避難状況



UNHCR, OPERATIONAL PORTAL REFUGEE SITUATIONS (2021年2月4日時点)

シリア国内や周辺国で、多くの人が避難生活を送っています。セーブ・ザ・チルドレンは、シリア国内と周辺国のトルコ、レバノン、ヨルダン、イラク、エジプトで支援をしてきました。

*1,3 UNICEF, Syria 9facts and figure (June, 2020)
*2 UNOCHA, Syrian Humanitarian Needs Overview, 2019
*4 UNHCR, Syria 3RP Regional Strategic Overview 2020-2021

1

人口の**76%**が避難を余儀なくされている

2011年以降、260万人の子どもたち*1を含む620万人以上*2が国内で避難を強いられています。また、250万人の子どもたち*3を含む558万人以上が国外へ避難し、支援を必要とするシリア難民の70%*4が女性や子どもです。



© Alma Haser&Nick Ballon/Save the Children

シリア国内では...

2

半数以上の子どもたちが教育を受けられていない*5

3校に1校の学校が損壊や破壊され、教育施設への攻撃はおよそ700回にのぼります。*6 また、新型コロナウイルス感染症拡大やその影響による経済的困窮により、学校に通えない子どもが急増しています。



© Syria Relief/Save the Children

4

こころのケアが必要な**75%**が支援を受けられていない*10

日常的に空爆や暴力に晒され、不安や恐怖から多くの人が精神的苦痛を感じています。また、クラスの約8人に1人にあたる子どもたちがこころのケアを必要としています。*11



3

栄養不良に直面する人の**74%**が5歳未満*7

国内で栄養不良の人は460万人*8おり、その多くが子どもたちです。また、発育阻害に陥る子どもは50万人*9にのぼります。



© Muhannad Kh/Save the Children

5

子どもたちの**半数**が紛争しか知らない*12

紛争下で生まれた子どもは480万人*13。また、親や養育者と離ればなれになった子どもたちは虐待やネグレクト、搾取などの危険に晒されやすくなります。



セーブ・ザ・チルドレンの支援

主な活動分野

セーブ・ザ・チルドレンは、シリア国内外で緊急支援物資の提供や教育、子どもの保護など、さまざまな分野で支援を行っています。また、2020年からは、世界的に大流行している新型コロナウイルス感染症に対応するための緊急支援も展開しています。これまで、シリア国内で約240万人の子どもたちを含む380万人以上に支援を届けてきました。



子どもの保護



教育支援



水・衛生支援



保健医療支援



生計支援



栄養支援

最新情報は、団体ウェブサイトやSNSで紹介しています。

シリア難民シラジさんの人生を大きく変えたセーブ・ザ・チルドレンの支援



© Jonathan Hyams/Save the Children



紛争が続くシリアから避難を決意。

過去に父親をバイク事故で亡くしたシラジさん一家は、2012年、激しい紛争下で避難を決意。午前3時、車に乗り込み、ライトを付けず息をひそめて避難しました。

シラジさん(13歳)は、当時の様子を描きながら「見つかったら撃たれるかもしれないと思いました。国境を超えたとき、肩の荷が下りました」と話します。レバノンの難民居住区で避難生活をはじめました。



© UK Stories Team/Save the Children



© Jonathan Hyams/Save the Children

避難先レバノンで働く。

シラジさんは、朝4時に起きて、6時間～8時間トマト栽培の仕事をしてから学校へ。疲れて勉強に集中できなかつたり、学校を休んでしまうこともありました。

子どもたちが安心・安全に過ごすことができる空間「こどもひろば」で、ケースワーカーと出会いました。シラジさんが家計を支えるために働いていたため現金給付などの生計支援を行うことになりました。



© Nour Wahid/Save the Children



© Jonathan Hyams/Save the Children

朝から学校に通えるように。

生計支援もあり母親の服飾販売が安定し、シラジさんは、朝から学校に通い勉強に集中できるように。きょうだいの見本となるよう努力したいと話しました。

生計支援を開始し、母親へビジネスのアドバイスも実施。また、シラジさんの姉(15歳)は結婚を考えていましたが、ケースワーカーから児童婚がもたらす影響などを学び、考えを変えました。



© Nour Wahid/Save the Children



© Jonathan Hyams/Save the Children

イタリアで新しい生活が始まる。

イタリア語を学び、勉強し、友だちをつくりたいと話すシラジさん。将来医師になる夢も描けるように。「いつか平和なシリアに戻って働きたい」と未来を見据えます。

ケースワーカーの支援のもと、国連機関の第三国定住プログラムで一家はイタリアへ。シラジさんは「子どもたちは紛争を経験するべきではない」と訴えます。



© Jonathan Hyams/Save the Children

プライバシー保護の観点から、シラジさん(仮名)の実体験を基に編集しています。



© Dominic Nahf/Save the Children



カメラマンが捉えた少女

「今、一番欲しいものは何?」「魔法。」
 とはないのです。(中略)戦争は単なる軍事行動ではなく、子どもたちに対する戦争です。(ギブランさん)
 しかし、ふと気が付くと、そこには父親のギブランさんも驚く光景が。アマルさんが、自

らカメラマンに向かってポーズを取っていたのです。その表情からは、つらい経験を経た悲しみとともに「これが私。見てください」と訴えかける意思が感じられ、カメラマンはシャッターを切りました。その後、彼女は少し話してくれました。欲しいものは、魔法。理由は、望むのがなんでも手に入るから。一家は、ドイツでの生活を望んでいます。

ここで紹介しているアマルさんのストーリーは、セーブ・ザ・チルドレン・ドイツ(©Save the Children Germany)が制作した、過去100年間に各地で起こった戦争や紛争の体験者によるフォト証言集『私は生きている:戦争の一世紀を生き延びた子どもたち(I Am Alive: How Children Survived a Century of Wars)』から抜粋しました。



忘れない

それは日本にいる
 私たちができる一つの支援

2011年にシリアで紛争が勃発してから10年が経過し、新型コロナウイルス感染症が世界を席卷する今、シリアの子どもたちの状況や声が日本に伝わる機会は決して多くありません。あるシリアの子どもは、私たちに、「私の国で起きていることを、みなさんに知ってほしいのです」と訴えました。今や、シリアの子ども半数が紛争しか知らない人生を送っています。故郷や平和を知らずに育つ子どもたちのことを、日本の私たちが忘れてしまったら、彼らはどれほど落胆するでしょうか。

殺傷され、家族と引き離され、学校が破壊されたシリアの子どもたちの権利は著しく侵害されています。世界が心を寄せ、可能な限りの支援をしなければ、この状況を止めることはできません。日本にいてもシリアの子どもたちのことを知り、忘れずにいることはできます。そのことが、シリアの子どもたちを取り残さない、さまざまな支援につながります。

10年という年月は、子どもたちから本来彼らが享受すべき子ども時代をすべて奪ってしまうのに十分な時間です。セーブ・ザ・チルドレンは、シリアの子どもからの「私たちが忘れないで」というメッセージを心に刻み、彼らの権利を守るために支援を続けます。

東日本大震災から 10年

— 当時の子どもたちがいま伝えたい想い —

活動に参加して、
自分の中で変化したと
感じることは？

“ 相手の話を否定せずに聞き、自分の中で消化してから
話すことを心がけるようになりました
(岩手県 山田町出身 現在21歳)

“ 震災を経験している私たちが
まちづくりクラブ*の活動をつないでいくことで、
後世に語り継いでいきたい
(宮城県 石巻市出身 現在21歳)

“ 自分の意見を伝え、
人の意見をしっかりと聞くことで、
多様な視点から物事を考えられるようになった
(宮城県 石巻市出身 現在17歳)

“ 防災があたり前の世界を
守ることのできる命をもう二度と失わないために
(岩手県 宮古市出身 現在23歳)

“ やりたいと思ったことを自分から、
積極的に行動を起こせるようになった
(宮城県 石巻市出身 現在21歳)

“ 考える力や自分の言葉に
責任を持つ習慣が身に付いた
(岩手県 陸前高田市出身 現在20歳)

“ 自宅でも学校でもなく
「自分が自分らしく」いられる
第3の場所を
(福島県出身 現在23歳)

“ 子どもたちが安心して意見を
伝えられる居場所づくりを
(岩手県 陸前高田市出身 現在23歳)

“ 子どもたちの意見を地域のまちづくりに
取り入れてほしい
(岩手県 山田町出身 現在23歳)

今後自然災害が
起こったときにどのような
支援やサポートが必要？

※子どもまちづくりクラブの略称。東日本大震災復興支援として、岩手県山田町・陸前高田市、宮城県石巻市で、子ども参加によるまちづくりを実施。
※年齢はインタビュー実施当時(2020年10月から11月頃)のものです。



数字で振り返る活動

4,451人

農業・水産高校計29校
の生徒に給付型奨学金
を提供しました。



48,000人

岩手・宮城県で実施した
4回の意識調査にのべ
約48,000人の子ども
たちが回答しました。

188万人

のべ約188万人の
人たちに支援を
届けました。



19ヶ所

岩手・宮城県で、
「こどもひろば」を
開設しました。



23施設

公園や学童保育施設
などを建設・設備
しました。



スタッフの声

震災直後から、子どもたちは活動を通して
それぞれの声を発信し、それは徐々に、地域
を越えて広がり、力強くなり、さまざまな形
でつながっていきました。成長し、今度はそ
れぞれが子どもの声の聴き手となりつつ、
引き続き自らの声を発信し、日本を含めた
世界中に広く伝わればと思います。

国内事業部 山田 心健



東日本大震災から10年いま伝えたい想い

ウェブサイトやリーフレットで、イン
タビューや活動を伝える資料を紹介
しています。ぜひ、ご覧ください。



体罰を社会から根絶するために必要なことは何か

2020年11月に国が発表した2019年度の児童相談所での児童虐待相談対応件数は19万3,780件(速報値)と過去最多を記録しました。そして、2020年度も前年比で増加傾向にあることが明らかになっています。この背景には、新型コロナウイルス感染症対策の影響による経済不安や、家庭にいる時間が増えたことなどから家庭内のストレスが高まっていることがあるのではないかとされています。

2020年4月に親などによる子どもへの体罰を禁止する改正法が施行*され、もうすぐ1年を迎えます。しかし法改正だけでなく体罰がなくなるわけではありません。体罰をなくすために必要な制度や支援の枠組みをさらに拡充し、体罰の禁止を社会に根付かせていくことが必要です。

また、子どもを体罰や虐待から守るためには、子どもの権利が社会全体に認知されることが急務です。養育者だけでなく子どもも含めた誰もが、「子どもは体罰を含むあらゆる暴力から守られる権利がある」ということを理解し、子どもを一人の人間として尊重する社会を目指していく必要もあります。

私たちは、今年体罰等への意識・実態調査を実施し(3月末発表予定)、今後さらに必要な制度や支援の拡充のための政策提言につなげていきます。そして、すべての人が、子どもを一人の人間として尊重する社会を目指し、子育て中の親や養育者を対象としたイベントの開催やSNSの発信など、さまざまな形の活動も続けていきます。体罰を社会から根絶するために、ぜひ、あなたと一緒に考えてみませんか。

*2019年6月、子ども虐待防止の強化を目的とした児童福祉法、児童虐待防止法の改正法案が、国会で可決・成立。この改正により親などによる体罰の禁止が法律に明記され、2020年4月から施行されました。

親などによる体罰が法律で禁止されてからもうすぐ1年

子どもへの「そうだったんだね」が詰まった

ウェブサイト「おやこのミカタ」ができました

「子どもの権利」や「子どもの視点」を紹介し、イライラしてしまうなど「子育てで困ったときのヒント」などについての情報もたくさん紹介しています。

ウェブサイトを訪問した人の声

- 大事なアドバイスが詰まっており、行き詰まった時などに、何度も見返したい。
- 全てが共感できるし、色々な事で疲弊していた自分の気持ちが救われた。

子どものミカタ
子どもの視点を学ぶ



おやこのカタチ
さまざまな国の親子のつきあい方を学ぶ



子どもへの「そうだったんだね」が詰まったウェブサイト

あなたのミカタ
子育てで困ったときに、あなたの味方になるヒント



子どものケンリ
大人も子どもも、知っておきたい話



<https://www.savechildren.or.jp/oyakononikata/>

セーブザチルドレン おやこのミカタ

検索

新型コロナウイルス感染症 緊急子ども支援 2020年の活動

#ProtectAGeneration



昨年から世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス感染症。セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界87ヶ国で、2,950万人以上を支援しています。



詳しくはこちら

2020年に支援を届けた人数

子ども:1,180万人 大人:1,760万人
合計:2,950万人

日本国内の活動

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う経済状況の悪化や、緊急事態宣言の発出、昨年の全国一斉休校要請などにより、日本の子どもたちも深刻な影響を受けています。私たちは、ひとり親家庭応援ボックスをのべ2,501世帯に届けたほか、オンラインを通じて子どものこころのケアの情報発信や高校生への給付金提供なども行いました。

教育と学び



340万人以上に遠隔学習支援を行いました。ナイジェリアのアスマさん(12歳)は、「ラジオをもらってうれしくて飛び上がりました」と話し自宅学習に取り組みます。

子どもの保護



62万人以上の子どもたちや親・養育者に精神保健・心理社会的支援を届けました。バングラデシュ・ロヒンギャ難民キャンプでアミールさん(10歳)はこころのケアを受けています。

感染拡大防止



110万世帯以上に衛生支援を行いました。将来弁護士になりたいと話し自宅学習するジンバブエのマクリーンさん(10歳)のもとに衛生キットが届きました。

生計支援



55万世帯以上に現金給付などの支援を行いました。フィリピンのフェリザさん(5歳)とティモシーさん(6歳)一家のもとには食料品や衛生キットが届きました。



無断使用・転載禁止



無断使用・転載禁止

今後も支援を継続していきます。

PARTNERSHIP INFORMATION

Interview

「遊び」を通じて子どもたちを応援したい。

株式会社バンダイナムコホールディングス
経営企画本部
コーポレートコミュニケーション室



工藤 祐太 様



人々の心を照らすエンターテインメント

エンターテインメント企業グループであるバンダイナムコグループは、サービスや商品を通じて「夢・遊び・感動」を届けることをミッションとし、CSR活動では「楽しみながら、楽しい未来」をつくるためのさまざまな活動に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症拡大下で、エンターテインメントに人の心を照らす力があると認識した今、この活動方針の重要性を改めて実感しています。

すべての子どもが夢中になって楽しめる機会を

2011年の東日本大震災以降、寄付やワークショップ開催などを通してセーブ・ザ・チルドレンを支援しています。震災後、スタッフの皆さんから、現地では子どもたちが楽しむ・遊ぶものが限られていると聞き、「参加するすべての子どもたちが楽しめる機会をつくろう」と、被災地で従業員による「くまのがっこう」や「ガンダム」のプラモデルを用いたワークショップを開催しました。現在も支援を継続していますが、人気のキャラクターが登場した瞬間、子どもたちが歓声をあげて夢中になる姿を見ると、いつも大きなやりがいを感じます。

継続的な支援がさらなる連鎖を生み出す

支援を続けるなかで、ワークショップがきっかけで子どもたちによる自発的なプラモデルコミュニティが誕生したという話を聞き、とてもうれしく思いました。また、従業員から活動への共感の声が寄せられることも多く、持続性のある支援が重要だと感じています。今後も活動を継続し、未来を担う子どもたちに「遊び」を通じて支援を届けたいと考えています。



Information



空から子どもたちへ
支援を届けたい

ANAグループからは、新型コロナウイルス感染症が広がる困難な状況において、緊急子ども支援として「ひとり親家庭応援ボックス」へ機内食用の食品をご提供いただきました。また、著名人による読み聞かせプロジェクト「セーブ・ウィズ・ストーリーズ」を機内放映で紹介し、この活動を広めていただきました。



困難な状況に直面した
子どもたちに寄り添う支援を

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社からは、東日本大震災後より、日本国内の緊急支援をはじめとするさまざまな活動をご支援いただいています。昨年九州地域で発生した7月豪雨や新型コロナウイルス感染症に対する緊急支援では、困難な状況に直面する子どもたちへディズニーグッズを通じた特別な体験をご提供いただきました。



今日を愛する。
LION

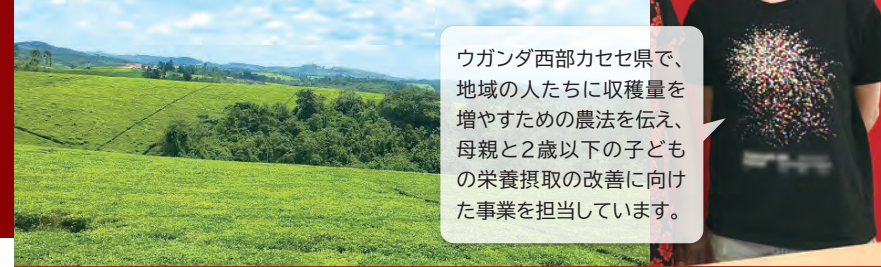
より多くの子どもたちに
健康な生活習慣を

ライオン株式会社からは、新型コロナウイルス感染症緊急子ども支援で実施した「ひとり親家庭応援ボックス」へ「キレイキレイ泡ハンドソープ」と「クリニカハミガキ」をご提供いただきました。同社は、「健康な生活習慣づくり」をサステナビリティ最重要課題として掲げ、支援活動を支援いただいています。



スタッフの一日

ウガンダ駐在員
日野 愛子



ウガンダ西部カセセ県で、地域の人たちに収穫量を増やすための農法を伝え、母親と2歳以下の子どもへの栄養摂取の改善に向けた事業を担当しています。



ウガンダってどんな所？

アフリカ東部に位置する内陸国です。面積は日本の本州ほどで人口は約4,300万人です。年間の平均気温は20度~28度で過ごしやすい気候です。人口一人当たりの国民総所得 (GNI) は低く、地方に行くほど貧困率は高いです。

**1 「オブチーレ!」(おはよう!)
出勤時間 08:30**

首都カンパラの事務所にはスタッフ約60人。事業地のカセセ県には20人のスタッフがいます。朝一番の習慣は、スタッフに声をかけることです。

2 午前の仕事 09:00

前日の活動の成功例や課題についてスタッフから報告があります。そして、今後の解決策を話し合います。

4 午後の仕事 14:00

村を回って、農家の人や母親、保健施設職員と話します。直接話すことで、事業の成果や課題を肌で感じることができます。

3 13:00 昼食

カセセ事務所にて。バナナとトモロコシを蒸したもの、スクマウィッキという蒸し野菜、湖でとれた魚の煮物(スープがおいしい)、マンゴーパッションフルーツジュース。今日のランチはごちそうです。

5 18:00

週末は、外で食事をしてゆっくり過ごしたり、ビクトリア湖で魚釣りをしたり、しっかり休息を取るようになっています。

LINE始めました!
お友だちに
なってください



友だち
追加はこちら

世界中の子どもたちの今や、セーブ・ザ・チルドレンの活動、イベント情報などをFacebookやTwitterなどのSNSで発信しています。3月からは、新たにLINEが加わりました。友だち追加をしてタイムリーな情報を受け取ってください。また、SNS投稿のシェアやリツイートを通して活動情報の拡散へもご協力をお願いします。今年はスタッフ紹介など新しいコンテンツも予定しています。

- Facebook 【フェイスブック】
SCJ.SavetheChildrenJapan
- Twitter 【ツイッター】
scjapan
- Instagram 【インスタグラム】
savethechildren_japan

たまったポイントを子ども支援へ

セーブ・ザ・チルドレンへのご支援方法のひとつに、たまったポイントやマイルによるご寄付があります。2月からは、フリマアプリ「メルカリ」の売り上げ金を寄付できる「メルカリ寄付」の寄付先にセーブ・ザ・チルドレンが加わりました。

このほか、セーブ・ザ・チルドレンへのご寄付方法についてはこちら





写真展を開催しませんか 「紛争下を生きる子どもたち」

ひとりでも多くの皆さまに、紛争下の子どもたちのことを知っていただき、身近に感じていただくことは、いま、紛争下で生きている子どもたちを支えることにつながります。セーブ・ザ・チルドレンでは、ギャラリーや展示スペースをお持ちの団体や企業の皆さま向けに、写真展パネルの貸し出しを行っています。

お問い合わせ

件名に【写真展について】とご記入ください

japan.community@savethechildren.org



詳細はこちら



写真展に参加した方の声

戦争や内戦がきっかけとなり、世界で貧困に苦しんでいる子がいる。その事実が多くの人の目に入ることが行動の始まりとなると考えるので、写真展はとてもよい。

8月に第2次大戦(終戦)関連の展示は多いが、「今」を知ることで、ニュースなどを更に興味を持つことができました。



10年の危機と新型コロナ 紛争下の子どもたちを いま、守る。 ～シリア危機10年～



支援活動にご協力ください 子どもを守るシェルターキット一式(テント、ブランケット、マット)を提供できます。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

編集後記

昨年から私たちの生活は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けています。そのような中シリア危機は10年が経過しました。いま日本から紛争下の子どもたちにできることは何か。本誌の特集を通して皆さんと一緒に考える機会になれば幸いです。(編集担当:和田)

表紙写真:シリア北西部イドリブ県で家族とともに避難生活を送るハヤットさん(10歳)。学校や自宅が空爆されたと話します。(2020年1月撮影)



www.savechildren.or.jp

セーブザチルドレン 検索



セーブ・ザ・チルドレンは、日本を含む世界120ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・非営利の国際組織です。子どもの権利が実現された世界を目指し、100年にわたり活動しています。

*この冊子の印刷におきましては、協和オフセット印刷株式会社にご支援いただきました。



この冊子はFSC®認証紙を使用しています。